

# 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会

## 平成 28 年度活動報告集

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会に関する情報はこちら

HP : <http://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/ai/npo/index.html>

Facebook : <https://www.facebook.com/kanto.ictnpo>

## 【活動報告資料】

- 平成28年度定期総会（4月20日・千代田区） . . . . . 1
- 在宅就労支援フォーラム（10月22日・宇都宮市） . . . . . 4
- 官民協働が拓く地方創生フォーラム（11月16日・蕪崎市） . . . . . 6
- ICT勉強会（10月3日・横浜市）  
YOKOHAMA YOUTH Ups!2016-2017 Kick Off!（10月15日・横浜市） . . . 11
- 佐原国際文化に関する研究会（2月17日・香取市） . . . . . 14
- ビジネスデザインセミナー（10月25日・太田市） . . . . . 17
- ビジネスモデル発見&発表会 関東大会（1月30日・さいたま市） . . . . 19
- わがまちCMコンテスト2016表彰式（2月26日・足利市） . . . . . 24
- わがまちCMコンテスト2016かながわ大会表彰式（3月20日・小田原市）  
. . . . . 28
- 第1回かんとぅNPO映像祭表彰式（2月12日・藤沢市） . . . . . 32
- 第4回協働型災害訓練 in 杉戸（2月3～4日・杉戸町） . . . . . 35
- まちづくりシンポジウム（2月19日・小山市） . . . . . 40
- インターナショナル・オープンデータ・デイ 2017@横浜（3月4日・横浜市）  
. . . . . 43
- はたらきかたシンポジウム（3月27日・桐生市） . . . . . 47
- 元気シニアが脳年齢度を知って頑張るタブレット講座  
（2月23日～3月27日・栃木県内5市町） . . . 50

## 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会が平成 28 年度定期総会を開催

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、4 月 20 日(水曜日)に平成 28 年度定期総会を開催しました。  
平成 16 年に設立された同協議会の 13 回目となる総会で、閉会后には、今年度の総務省テレコム関連施策説明会も開催されました。

### 定期総会

平成 28 年 4 月 20 日(水曜日)午後 14 時 00 分より、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会の平成 28 年度定期総会が総務省関東総合通信局の 21 階会議室において、同協議会の丸山 高弘幹事の司会進行で開催されました。

はじめに代表幹事の三木 哲也氏より、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会活動への協力への謝辞や今後の課題などについて挨拶がありました。

また、総務省関東総合通信局の須田 秀晴 情報通信部長からは、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会の活動や地域活動への支援などについて挨拶がありました。

その後、三木代表を議長に選出し、事務局の山本 正文 情報通信連携推進課長から平成 27 年度事業報告、平成 28 年度事業計画(案)及び役員(案)の提案がされ、出席者全員の拍手により、すべての議案が承認されました。

挨拶する三木代表



司会の丸山幹事



挨拶する須田部長



会場の様子



### 活動報告

平成 27 年度に実施した各活動について、企画・運営を行った 7 団体及び事務局より報告がされました。  
また、新規加盟した杉戸町の NPO 法人及び足利市の任意団体の紹介がされました。

- (1) 地域連携フォーラム 横浜コミュニティデザイン・ラボ、調布市民放送局
- (2) 地域連携交流会 NPO 埼玉ネット
- (3) 地域活動支援事業 ユーカリタウンネットワーク、湘南市民メディアネットワーク  
ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地、調布市地域情報化コンソーシアム
- (4) 新規加盟団体紹介 すぎとSOHOクラブ、まち映画制作事務所
- (5) 映像作品上映 わがまちCMコンテスト 2015 栃木大会、第 7 回かながわNPO映像祭
- (6) テーマソング披露 「わがまち CM コンテスト」テーマソング <このまちが好きだから・・・>

※: わがまち CM コンテストは、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会及び関東総合通信局が主催で平成 21 年から開催されている 30 秒の映像作品によるオリジナルコンテストです。「このまちが好きだから・・・」は、そのテーマソング。

横浜コミュニティデザイン・ラボ 杉浦氏



NPO埼玉ネット 太田氏



湘南市民メディアネットワーク 森氏



調布市地域情報化コンソーシアム 横山氏



まち映画制作事務所 藤橋氏



調布市民放送局 谷中氏



ユーカリタウンネットワーク 尾崎氏



ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地 川元氏



すぎとSOHOクラブ 豊島氏



テーマソング CD ジャケット



### 映像作品上映

平成 27 年度に実施した「わがまち CM コンテスト 2015 栃木大会」の優秀作品 16 作品及び第 7 回かながわNPO映像祭の優秀作品 4 作品が上映されました。

作品上映後、わがまち CM コンテストのテーマソング《このまちが好きだから・・・》を作詞・作曲された中村 正明氏が今年 1 月開催された栃木大会表彰式で熱唱する映像が披露されました。

このテーマソングは、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の復興に気持ちを込めて平成 23 年 4 月に制作されたもので、4 月 14 日と 16 日に発生した熊本地震により被災された地域の一刻も早い

復興を願い披露されました。

### 閉会挨拶

最後に関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会の太田 富雄幹事から定期総会に出席された方々への謝辞と関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会への支援・協力をお願いして、平成 28 年度の定期総会は成功裏に終了いたしました。

挨拶する太田幹事



閉会挨拶時の会場の様子



### 施策説明会

定期総会終了後、総務省のグローバルコミュニケーション計画、Wi-Fi 環境整備、放送コンテンツ海外展開促進及びふるさとテレワーク推進施策などが情報通信連携推進課の山本課長から説明された。

### 連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:山本、本郷 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## 在宅就労支援フォーラムを宇都宮市で開催

関東総合通信局は、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、NPO 法人チャレンジド・コミュニティと共催で 10 月 22 日(土)に栃木県宇都宮市のとちぎ青少年センターにおいて、在宅就労支援フォーラムを開催しました。当日の様相について、NPO 法人チャレンジド・コミュニティより報告がありましたので、ご紹介します。

平成 28 年 10 月 22 日(土曜日)に栃木県宇都宮市のとちぎ青少年センター多目的ホールにおいて、障害者と難病の働きたいを応援するフォーラムとして、在宅就労の現状と今後の普及啓発をテーマに在宅就労支援フォーラムが開催されました。

このフォーラムは、多様な働き方の一つである「テレワーク」を主な内容に、就労支援団体や障害者雇用に関心のある自治体・企業、そして在宅就労を希望する当事者や家族など 65 名が参加して開催されました。

栃木県では、在宅雇用の事例も極めて少ない現状のため、非常に刺激的な内容だったと思います。

### 【開会挨拶】

最初に NPO 法人チャレンジド・コミュニティの高柳 慎八郎 顧問より主催者挨拶をし、共催者である総務省関東総合通信局情報通信部長の須田 秀晴氏より開会のご挨拶を頂きました。

その後、栃木県の障害者団体を纏めている、とちぎ障がいフォーラムの代表である村上 八郎氏より、ご挨拶を頂きました。

高柳顧問



須田部長



村上代表



### 【講演1 在宅雇用の現状と事例紹介】

一般社団法人日本テレワーク協会相談センター専門相談員の安積 直道氏より、「在宅雇用の現状と事例紹介」と題し、講演を頂きました。

テレワークの基本的な考え方、テレワークを活用している企業の事例、さらにテレワークを活用して障害者の就労に結びつけている事例もあって、参加者は、テレワークの内容が良く理解出来たものと思われれます。

次に栃木県内の事例として、テレワークの実行と普及をされている IT Support パソコン太郎株式会社の代表取締役社長の大房 剛樹氏より、地域でのテレワーク普及活動の紹介を頂きました。

講演する安積氏



活動を紹介する大房氏



## 【講演2 在宅就労支援団体からみた在宅就労の可能性】

東京都で障害者の就労支援団体として活躍されています NPO 法人ウィーキャン世田谷の理事長である鈴木 千恵子氏から、「在宅就労支援団体からみた在宅就労の可能性」というテーマで、活動や事業所の紹介を頂き、その後、スカイプで東京の事務所と会場を接続して、花澤職業指導員から在宅訓練の様子などの紹介を頂きました。

障害者の在宅就労で実績のある鈴木理事長の講演は、大変参考になりました。

講演する鈴木理事長



スカイプで接続して紹介する花澤指導員



## 【webディスカッション】

NPO 法人チャレンジド・コミュニティの職業指導員の小笠原 潤をコーディネーターに、東京都在住の田中 麻子氏、栃木県在住の廣田 雄平氏と猪瀬 剛伸氏の 3 名に自宅からパネラーとして参加いただき、インターネット会議システムであるスカイプを活用した在宅就労を希望する当事者の意見交換を行いました。

身体障害者の場合の移動困難性、精神障害者の対人関係困難性などのハンディキャップについて、在宅での就労ならば、その困難性が克服できること、また在宅での安定した環境のもとでスキルや能力が発揮できることなどが意見交換のなかで紹介されました。

コーディネーターの小笠原指導員



スカイプで参加の3氏



## 【閉会挨拶】

最後に、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会の代表幹事の三木 哲也氏より、フォーラムの感想と参加者への謝辞、閉会の挨拶を頂きました。

挨拶する三木代表



会場の様子



## 連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、本郷 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## 官民協働が拓く地方創生フォーラムを山梨県韮崎市で開催

関東総合通信局は、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、NPO 法人地域資料デジタル化研究会と共催で 11 月 16 日(水)に山梨県韮崎市の韮崎市民交流センターにおいて、官民協働が拓く地方創生フォーラムを開催しました。

当日の様相について、NPO 法人地域資料デジタル化研究会より報告がありましたので、ご紹介します。

平成 28 年 11 月 16 日(水曜日)午後 1 時 30 分より韮崎市民交流センターNICORI(ニコリ)において、「官民協働が拓く地方創生フォーラム」を、主催 NPO 法人地域資料デジタル化研究会、共催総務省関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会により開催いたしました。

このイベントは、県内における各自治体の行政改革(公共施設再編)を促進するための、官民協働事業の実践事例を紹介することで理解を深め、総務省が主唱する「トップランナー方式」の導入が検討されている公共施設の再編による地方創生の一助となるイベントとして開催し、行政と民間団体との協働による ICT を利活用した公共施設の活用と地域づくりの促進を図ることを目的として実施いたしました。

総務省関東総合通信局並びに関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会のお力添えを得ることで、当日は約 70 名の方にご参加いただきました。

### 【開会挨拶】

最初に NPO 法人地域資料デジタル化研究会理事長、小林 是綱の開会挨拶の後、共催者である総務省関東総合通信局長の高崎 一郎氏よりご挨拶を頂きました。続いて、韮崎市副市長の水川 秋人氏より来賓挨拶を頂きました。

小林理事長



高崎局長



水川副市長



### 【基調講演】

第 1 部として、山梨県副知事の新井 ゆたか氏より「女性の力が山梨の未来を拓く」と題して、基調講演を頂きました。

新井副知事は山梨で女性初の副知事になられ、その立場から「なぜ今、女性活躍か?」「女性活躍と出生率アップの二兎を追うことはできるのか?」「富士山頂も一歩から(期待する具体的な取り組み)」というテーマでお話をいただきました。

日本の人口減少は切実な問題であり、2050 年(平成 62 年)には日本の人口が1億人を割り込み 10 人の内 4 人が支えられる世代(高齢化率 38.8%)となることを示された上で、それが意味するのは働く世代の減少であり、この問題を解決するためにはできるだけ多くの人に労働市場を与えること、働いていない女性にどう活躍してもらうか、女性が活躍しないと次世代を支えられないという現状を示されました。

女性が働く上で重要なポイントとして、「意識改革」制度自体の改革、職場や家庭、子供の声も良い事なんだ!と思える社会づくり。「働き方改革・働き場の提供」雇用形態や賃金の問題。(山梨県内ではトップや管理職、従業員を巻き込んでの政策『こびっと改革』を始動。)  
「子育て環境の充実」ライフステージに応じた切れ目ない支援等、の3つが上げられました。

女性の仕事、育児に関わる問題もあるが、現代では未婚率の問題もあり、現在は婚活や出会いのサポート、不妊相談、子育て支援など各ライフステージでの公共支援が全国で約 40 の都道府県で行われている実態が報告されました。





山梨では出生率低下の対策として、全国初の全県第二子以降の保育料無料化を実施し、二人目を諦めない、仕事を諦めない、また経済的負担を減らすことで女性の活躍を期待しています。

日本は主要国に比べて労働時間が長いことも問題として挙げられ、特に男性の労働時間が長いことが女性の家事の負担に繋がっている。夫が家事や育児に参加する時間が1日平均1時間という数字が出ていて、女性が穏やかな気持ちでいられるためにも3時間は関わってほしいという話もありました。

女性の社会での活躍の壁は、女性を「採用していない」「育てていない」、女性が「続けられない、続けたくない」「昇進したいと思えない」という現状があり、その根底には長時間労働と性別役割分担意識(男は仕事/女は家庭)がある。女性が活躍しないと企業も成り立たない時代がくる、経営者(上に立つ人)が少し背中を押して、女性に発言する機会を与えるなど、意識改革の重要性を強調されました。

### 【事例発表】

第2部は、山梨県内の指定管理者制度を取り入れた官民協働の事例について6団体が発表。

#### ＜事例発表1 清里丘の公＞

(指定管理者:株式会社丘の公園 支配人 伏見 勝氏)

平成16年より現在まで13年間指定管理者として丘の公園を運営する。県有林を使用したゴルフコース、温泉、レストラン等の複合施設で年間約30万人の来場者がある。運営の柱として、地域との協働を上げている。施設運営をしながら地域貢献は思ったより大変な事であるが、地域全体のブランド力を上げる努力をし、地域全体の活性化の一助となればと思い、行政と協力して頑張っている。また女性の職員も率先して企画・運営に携わっている。

#### ＜事例発表2 山梨県フラワーセンターハイジの村＞

(指定管理者:株式会社桔梗屋 取締役総務部 村松 行雄氏)

平成18年より指定管理者としてフラワーセンターハイジの村を運営し、今年10周年を迎える。明治24年創業のお菓子屋がなぜ異業種の経営に取り組むか、お客様があつと驚くような企業でありたいということを理念に、民間ならではの常識にとられない経営を心がけている。お客様の目線に立った運営と本社機能の利用・連携で様々な効率化をはかっている。

#### ＜事例発表3 韮崎市立大村記念図書館＞

(指定管理者:株式会社図書館流通センター 館長 加藤 博純氏)

平成23年9月より指定管理者として大村記念図書館を運営している。市民の交流の場としてリノベーションした市民交流センターの2階にあり、自主事業・企画イベント等で年間15万人程度の利用がある。全国496館の指定管理を行う本社のノウハウを共有し、居心地が良く、感性を学び心を養う場を提供している。自治体と協働し、地域の連携と情報を発信する。

伏見支配人



村松部長



加藤館長



#### ＜事例発表4 韮崎市民交流センター NICORI ニコリ＞

(指定管理者:株式会社まめいく 代表取締役 星野 次夫氏)

平成 23 年 9 月より指定管理者として韮崎市民交流センターニコリの施設全体を管理している。このセンターは 10 のテナントに 18 団体が入居している。そのため、全団体が集まっての連絡会議を定期的に行なっている。

建物があっても人が来ない施設であってはダメと、市民に来てもらうためのイベント等を積極的に行うとともに、全ての市民に平等・安心の姿勢で子供達にも感謝される施設になっている。

#### <事例発表 5 韮崎市子育て支援センター いら★ちび>

(指定管理者:NPO 法人ちびっこはうす 理事長 内藤 香織氏)

平成 23 年 9 月より指定管理者として子育て支援センターいら★ちびを運営している。韮崎市民交流センターニコリの3階にある。

子どもの笑顔のため、養育者の笑顔のために、を理念に情熱・行動・使命を持って活動している。町中で子育てを応援する仕組みづくりに取り組み、「官」のフォーマルな支援と「民」のインフォーマルな支援で「たて」「よこ」「ななめ」の子育て支援の実現を目指している。

#### <事例発表 6 山中湖情報創造館>

(指定管理者:NPO 法人地域資料デジタル化研究会 副理事長 丸山 高弘)

平成 16 年 4 月より指定管理者として山中湖村にある公共図書館、山中湖情報創造館を運営している。

全国で初の指定管理者による公共図書館の運営を行い、現在では Pepper というロボットの職員もいる。民間が仕事も楽しみながら、市民にも楽しんでもらえる施設づくりを目指している。

星野代表取締役



内藤理事長



丸山副理事長



公共施設の再編というのが今日の大きなテーマであり、この韮崎市民交流センターニコリは空いた施設で公共サービスを提供する場として、官が利用した、とても参考になる例だと思う。今後、官と民が協働して公共サービスの提供を行い地域を盛り上げていければ、地方創生の時代が来るだろうと思うと述べ、事例発表の全体を締めくくった。

#### 【ディスカッション】

第 3 部は、「官民協働を女性の力で切り拓くために」をテーマに、女子トークと称したディスカッションが行われました。

司会は、エフエム八ヶ岳のパーソナリティや婚活イベントのファシリテーターである五味 愛美氏が務められました。

ゲストは、株式会社図書館流通センターの谷一 文子会長、笛吹市市民環境部の鶴田 一二美部長、NPO 法人ちびっこはうす前理事長(現参議院議員)の宮沢 由佳氏が公務による欠席のため、事例発表していただいた NPO 法人ちびっこはうすの内藤 香織理事長に登壇していただき、ラジオでの女性によるトーク番組スタイルでディスカッションが行われました。

冒頭、参加者に配布した青／黄／赤の色画用紙を使った会場アンケートでスタート。

それまで聞いただけだった会場との一体感づくりから始まりました。

左から MC の五味氏と鶴田部長



左から内藤理事長と谷一会長



今回のフォーラムのテーマである「指定管理」「仕事」「女性」をキーワードに女性の切り口、発想で意見交換が行われました。

まずは、公共施設を民間が運営する利点についての質問に、公共図書館については利用時間が長いこと、休館日を減らすなどサービスの向上を第一とし、その次に経費節減を考えている。多様なお客様に対応できるようなサービスを提供している。利用者が増えていることも確かで、利用者数だけでなく、地域に還元できる取り組みが出来ると考えている。

地方差、過疎地などにおける工夫として、地方に行けば行くほど密着度が強いので、公共図書館と学校図書館の連携が重要と考え、強化している。また雇用は地元の人を積極的採用している。

NPO 法人ちびっはうすの立ち上げ経緯について、県外から山梨に来た身寄りもない友達もいない人たちが「一緒に子育てしよう」と集まった。1人が来ると、実はその後ろに100人くらいいるもの。支援センターも敷居が高いと感じる人たちのために、スーパーの一角でマットと囲いで広場を開設したりした。必要なところに飛び込んで行くことで、母親の視点になると内藤理事長は話す。

今年10月、にら★ちびのある韮崎市民交流センターの地下に「ミアキス」という中高生を支援する施設がオープンした。市から委託されているのはNPO法人河原部社。昨年韮崎の「まち・ひと・しごと創生会議」の子育て・教育部門で問題提起され市の支援を受けて始動した事など、会場にいた代表の松本理事長から発表があった。松本理事長は、ちびっはうすから独立した。



ビデオ出演の宮沢氏（左）

本日公務のため参加できなかった宮沢 由佳氏から、ビデオメッセージが寄せられた。

ちびっはうすの立ち上げは、主婦として必要に迫られてやった事、国会議員をしているのも自然な流れだと思える。女性は結婚で仕事を辞める、子供を産んで仕事を辞めるなど山あり谷ありだが、それに対応できる能力がある。事を起こすにも一人ではできないが、仲間がいたから生活の中で自然にネットワークが出来たと振り返る。女性は粘着力がある、人と人とを結びつける接着剤的な役割ができる。官と民では与えられる目的が違うので、女性としてそれをくっつける役割ができるし、課題

解決のためにはいろいろな人と関わること、「わかってくれない」ではなく「何でわからないんだろう」と考え方を換え、男性にも色々関わってもらうことが重要だとメッセージを頂いた。

笛吹市で女性初の部長として活躍する鶴田氏は、年齢によって男女協働の考え方が違うこと、消極的な女性が多いが若い人たちは違う。部下を信じ人間関係を作ることが大事だと考える。笛吹市の市民活動支援課は、職員の呼びかけで出来た課で、課長職5名のうち3名が女性。すぐに結果が出せるものではないので、辛抱強く取り組むには女性向きの仕事かもしれないと話す。

全国展開している図書館流通センターもちびっはうすも、市役所も業務を円滑に行うための独自のグループウェアを導入し、経験やノウハウを共有することでより質の高い公共サービスを提供していることに加え、facebook やLINEなどのSNSの活用、eラーニング等による研修やテレワーク／在宅勤務にICTを活用するなど、女性活躍のためにはインターネットを組めたICTが不可欠だと考える。

上に立つ立場として、また成功するまでには壁があったと思うが、その乗り越え方について谷一

氏は、司書を経て民間に入ったが、女性を上手く伸ばす会社だと思っている。大きな挫折も味わったが、1つの成功で吹っ切れた。考えすぎず今やるべき事をやることで、周りが支えてくれる、男であっても、女であっても人と仲良くしておくことで助けてもらえたと振り返る。

内藤氏は、周りに流されず、自分にとっての1番は何かを考える。1番を選べば自ずと2、3は付いて来るものと述べた。

行政改革／公共施設再編に対してトップランナー方式が導入されると、さらに官民協働の機会が増えることについての問いに、女性の特性は耐えられるところ、「女性が切り拓く」というよりは協働していく中で女性の役割、何が出来るかだと思う、と鶴田氏。民の思いと市の施策、折り合いをつけバランスを取れるのが女性。男もいて女もいて社会は成り立つので、それぞれの役割分担がある。新井副知事の言うように意識改革、そして女性は何より粘着力、という結論で締めくくられた。

### 【閉会挨拶】

閉会挨拶の前に、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会の長友幹事より協議会(資料配付)の説明と挨拶を頂きました。続いて NPO 法人地域資料デジタル化研究会の中澤 京子理事より本日のフォーラムの振り返りと参加者への謝辞を申し上げ、盛況のうちに閉会いたしました。

挨拶する長友幹事



閉会挨拶する中澤理事



### 連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、本郷 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## 横浜市で2つの地域イベントを開催

関東総合通信局は、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会と共催で 10 月 3 日(月)に横浜市において、地域連携交流会として「ICT 勉強会」を開催しました。

また、10 月 15 日(土)には、地域活動支援事業として、横浜オープンデータソリューション発展委員会等が主催する「YOKOHAMA YOUTH Ups! 2016-2017 Kick Off!」イベントに協力しました。

### 【ICT勉強会】

平成 28 年 10 月 3 日(月曜日)午後 4 時 00 分より、横浜市中区のさくらWORKSにおいて、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会の地域連携交流会として ICT 勉強会が開催されました。

このICT勉強会は、横浜・神奈川のNPO・自治体関係者等を対象に地域課題解決や地域活性化の取組事例を紹介し、今後の官民連携によるICTの利活用推進の取組の参考とするため開催されました。

はじめに企画運営を担当した杉浦幹事より今回の ICT 勉強会の開催趣旨や発表が予定されている横浜をはじめとした神奈川県内の活動の概要の説明がされました。

続いて、総務省関東総合通信局の須田 秀晴 情報通信部長からは、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会の活動や地域活動への支援などについて挨拶がありました。

その後、地域での活動について、各団体より発表・紹介がありました。

ICT勉強会の開催趣旨を説明する杉浦幹事



挨拶する須田部長



発表・紹介された各活動は、次のとおりです。(順不同)

#### (1)横浜・神奈川の NPO 等による ICT 利活用の取組紹介

横浜市・鎌倉市・横須賀市連携 「三浦半島をハックせよ！三浦半島魅力最大化」

～来てもらい・見てもらい・住んでもらう MIURA～ アーバンデータチャレンジ 2016

Code for Japan Summit

かなざわ育なび.net

LODチャレンジ 2016

「ちょいつまみウオーク」におけるIoT・オープンデータの活用

データ活用ビジネスプラン・ブートキャンプ in YOKOHAMA

第1回かんとうNPO映像祭 <NPOは広くつながる>

「LOCAL GOOD YOKOHAMA」福岡市・北九州市等の連携展開について

YOKOHAMA YOUTH Ups! 2016-2017

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016(COG2016)

#### (2)関東エリアの各都県の NPO 等による取組紹介

官民連携が拓く地方創生フォーラム(11月16日開催、山梨県韮崎市)

#### (3)お知らせ

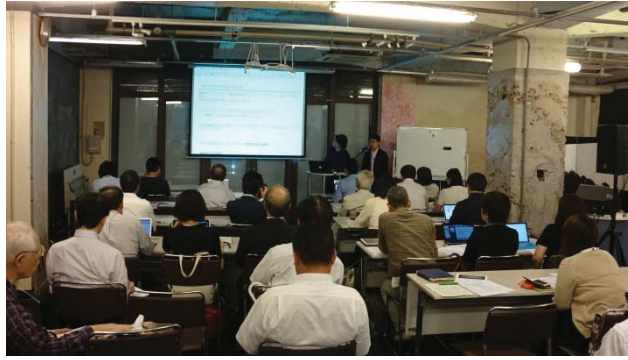
第三回ビジネスモデル発見&発表会・関東大会

わがまちCMコンテスト 2016 (地方発 30 秒CMで、地域の魅力を再発見！)

在宅就労支援フォーラム(10月22日開催、栃木県宇都宮市)

インターナショナルオープンデータデイ 2017

会場の様子



当日は、急遽開催を決定したICT勉強会にもかかわらず、50名を超える方々に参加を頂きました。参加者は、発表・紹介される各活動について熱心に耳を傾けていました。

当初予定していた意見交換は、会場の使用時間の関係で場所を移し、参加者間の交流も含め、夜遅くまで行われました。

主催：総務省関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会  
企画：NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ

### 【YOKOHAMA YOUTH Ups ! 2016-2017 Kick Off !】

平成 28 年 10 月 15 日(土曜日)午後 2 時 00 分より、横浜市神奈川区の情報科学専門学校において、YOKOHAMA YOUTH Ups ! 2016-2017 Kick Off ! イベントが開催されました。

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会では、地域活動支援事業と位置づけ開催に協力しました。

YOKOHAMA YOUTH Ups ! は、「横浜が好き、横浜を知りたい」という若者が集い、課題解決に立ち向かっている大人達と交流し、そのエネルギーをアイデアやアプリの創造を通して、横浜の未来を変えて行くチャレンジです。

当日は、キックオフイベントとして、「多様な主体がつながり、創発するハマのシビックプライド」をテーマに開催され、約 65 名の方々が参加されました。

イベントは、6 部構成で行われ、20 名を超える方々から様々な活動の紹介がされました。

会場の模様



発表・紹介された各活動は、次のとおりです。(発表者等は省略)

- (1) 基調講演 「データでみる横浜市の政策課題とシビックプライドを醸成する視点」
- (2) 第一部 「都市をイノベーションする新しい仕組 企業からの提言」
  - データ活用した都市のブランディング・マーケティング
  - 新しい暮らしと生業を創発する協働共創拠点 リビングラボ
  - コミュニティ経済の基盤-ICTプラットホーム ローカルグッドヨコハマ
  - アイダソン、ハッカソンで描く都市の未来
- (3) 第二部 「暮らしから興すオープンイノベーション - NPO、中間支援組織から」
  - 子育て、子ども、教育、高齢者、女性、国際交流
- (4) 第三部 「大学、専門学校からの連携アピール」
  - 横浜市立大学、横浜国立大学、横浜商科大学、情報科学専門学校、成蹊大学
- (5) 第四部 「横浜青年会議所からの連携アピール」
- (6) その他
  - チャレンジ！！オープンガバナンス 2016(COG2016)

YOKOHAMA YOUTH Ups ! 2016-2017 は、来年3月4日(土)開催予定の最終発表会に向けて、各地で様々な活動が行われる予定になっています。

主催: 横浜オープンデータソリューション発展委員会  
YOKOHAMA YOUTH Ups ! 2016-2017 実行委員会  
後援: 横浜市政策局

### **連絡先**

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者: 道祖土、本郷 電話 : 03-6238-1680 FAX : 03-6238-1698

## 佐原国際文化に関する研究会を千葉県香取市で開催

関東総合通信局は、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、認定 NPO 法人江戸優り佐原まちづくりフォーラムと共催で 2 月 17 日(金)に千葉県香取市において、佐原国際文化に関する研究会を開催しました。当日の様相について、主催者より報告がありましたので、ご紹介します。

平成 29 年 2 月 17 日(金曜日)午後 2 時より香取市佐原の「甘味喫茶 ギャラリー いなえ」において、「佐原国際文化に関する研究会」を開催しました。当日は、地域の関係者を含め約 40 名の方々に参加を頂きました。

### 【開会挨拶】

まず最初に主催者の認定 NPO 法人江戸優り佐原まちづくりフォーラムの椎名事務局長より、佐原は山車行事(昨年 12 月にユネスコ無形文化遺産に登録)や歴史的町並みなどの歴史的資源と豊かな食文化を活かし、市民協働による「まちづくり型観光」に取り組んでいます。また、成田空港に近い立地を活かしたインバウンド対応などにも力を注いでいます。このような中で、佐原ではグローバルな情報発信の在り方を更に強化してきたいことから、佐原国際文化に関する研究会を開催し、地域ぐるみで考えていきたいとお話されました。

その後、共催の関東総合通信局情報通信部長 須田 秀晴氏、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会代表幹事 三木 哲也氏の挨拶があり、佐原のととても素晴らしいまちづくりに共感し、情報発信のあり方などについては本日の研究会で一緒に考えていきたいと思いますと話されました。

椎名事務局長



須田部長



三木代表幹事



### 【第1部】講演「フードイノベーションプログラム」

第1部は、イタリアのモデナ・レッジョ・エミリア大学のマッテオ・ヴィグリー教授から「フードイノベーションプログラム」と題して、世界各国で行われている「食」に関する様々な活動を「TRADITION(伝統)」と「INNOVATION(新たな価値の創造)」をキーワードにお話をいただきました。

現在、佐原が行っている様々な大学との連携や市民協働による食を通じたまちづくりに対し、新しい価値を創造する大学や企業との連携について大変参考になるお話でした。

特に企業との連携の在り方やグローバルなネットワークづくりについてのお話は参考になりました。

講演するマッテオ教授



通訳の方により日本語に翻訳



### 【第2部】意見交換会



第2部では、佐原で活動をしている参加のみなさんとマッテオ先生の活発な意見交換が行われました。香取市国際交流協会の岡沢さんは、ボランティアガイドについての取り組みについてお話をされ、食によるおもてなしと外国人に対してのおもてなしについて議論を深められました。

結いの会の小森さんは、食と文化をテーマにしたイベントなどを展開しているお話をされ、フードイノベーションを参考に新たな価値創造について議論が深められました。

次に観光協会の小林さんは、佐原のまちの特徴としてある地域連携の難しさについてなどを語られました。マッテオ先生とはそのための解決策などについて深めることができ、改めて地域連携の重要性などを再確認することができました。

最後に関東ICT推進NPO連絡協議会幹事の長友さんは、自身の活動と比較しながら、佐原のまちの地域連携に関するコメントや佐原の可能性についてまとめていただきました。

右側:岡沢さん



左から小森さん、小林さん



第2部の様子



中村氏による進行



### 【第3部】 交流会

第3部は、佐原の特徴である旦那衆の代表とも言われている商工会議所の小森顧問が出席され、旦那衆という言葉にマッテオ先生は興味をもたれました。

「旦那衆」という考え方が残る佐原の魅力に、新しい価値を見つけることができたことから、フードイノベーショングローバルミッションにおいて、ぜひ次年度は佐原でやりたいと話されていました。



会場は、地域の旬の食材を使った素晴らしい和食のおもてなしの数々にみなさん舌鼓をうちながら、終始和やかな雰囲気の中、それぞれの立場やその視点から交流が図られました。

6次産業化による地域活性がさらに注目されている中、マッテオ先生が推進する多面的かつグローバルな視点を生かしたフードイノベーションプログラムを学び、ディスカッションする中で、佐原の食や地域の文化を生かした新たな価値を創造するまちづくりのヒントをいただきました。

また、この研究会ではイタリア語や日本語、英語でのディスカッションが行われたことにより、多言語で情報発信の重要性とICTの利活用による情報発信について考える良い機会となりました。

## 《講師紹介》

講師 モデナ・レッジョ・エミリア大学(UNIMORE)

Matteo Vignoli マッテオ・ヴィグノリー

### 講師プロフィール

デザイン思考を軸にした研究、教育、ビジネスを通じて「未来を築く」ことを目指し、世界的に著名なレッジョ・アプローチの高等教育の場での実験を行っている。

マスタープログラムやビジネススクールで教鞭をとり、グローバルな組織とのイノベーションプログラムに取り組んでいる。

UNIMORE の経営工学部助教、スタンフォード大学客員研究員。

スタンフォード大学が創設したデザイン思考の ME310/SUGER-40 年以上に渡りイノベーションの為にデザイン思考の体験を提供するスタンフォード大学発の国際大学ネットワークのメンバーで、Challenge Based Innovation イニシアティブ@CERN の創設メンバーでもある。

フード・イノベーション・プログラムのアカデミック・ディレクター、Future Food Institute 理事、Future Food Ecosystem のグローバルリーダー

主催 認定 NPO 法人江戸優り佐原まちづくりフォーラム

共催 総務省関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会

後援 佐原商工会議所

協力 NPO 法人まちおこし佐原の大祭振興協会、香取市国際交流協会、NPO 婆佐羅結いの会、佐原おかみさん会、NPO 法人佐原アカデミア、プラットフォーム佐原小森文化財団、まちおこし会社ぶれきめら、佐原・商たすきがけ事業協同組合  
伊能忠敬翁顕彰会

## 連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、本郷 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## 群馬県太田市の関東学園大学でビジネスデザインセミナーを開催

関東総合通信局は、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、ICT ビジネス研究会と共催で 10 月 25 日(火)に群馬県太田市の関東学園大学において、ビジネスデザインセミナーを開催しました。

平成 28 年 10 月 25 日(火曜日)に群馬県太田市の関東学園大学において、ICT ビジネス研究会が主催で開催される、「第三回ビジネスモデル発見&発表会・関東大会」(以下、ビジネスモデル発表会という。)に向けてのビジネスデザインセミナーが開催されました。

このセミナーは、関東学園大学の要請により開催されたもので、経済学部経済学科の中村 正明教授の担当する「地域経済デザイン論」と「6次産業化プロデュース論」(1時限目、3時限目)、そして地域経済デザインコースの中村教授、山根 聡之先生、佐藤 有紀先生の3ゼミ合同(4時限目)による3時限に渡り実施したもので、地域経済デザインコース長の林 仁史教授や昨年度に応募した 2 年生の岡村 竜輝君もスペシャルアドバイザーとして協力を頂きました。

### 【1時限目】 午前 9 時 30 分～11 時 00 分

中村教授の「地域経済デザイン論」の講義時間に約 80 名を対象に開催されました。

まず最初に中村教授より、今回のビジネスデザインセミナーと開催趣旨と講師陣について説明があり、続いて、このセミナー主催者であり、ビジネスモデル発表会の共催者でもある、総務省関東総合通信局の本郷 力上席企画監理官から発表会の趣旨や総務省の ICT 関係の業務の紹介、そしてセミナーに参加する学生への期待について挨拶がありました。

その後、ビジネスモデル発表会的主催者である ICT ビジネス研究会の明神 浩氏と大錦 俊雄氏により、ビジネスモデルやアイデアの発想方法などについて、具体的な説明とともに、各学生とディスカッション形式による講義が行われました。

「アイデア発想のきっかけ」、「目標・目的は?」、「どのようなサービス・商品?」といったアイデア発想シートを活用し、プレゼン形式で学生に発表させるなど、初めての経験に戸惑う学生もいましたが、終始和やかな雰囲気ですeminarは、開催されました。

開催趣旨を説明する中村教授



ICT ビジネス研究会の明神氏と大錦氏



挨拶する本郷上席



1時限目の様子



### 【3時限目】 午後 13 時 30 分～15 時 00 分

「6次産業化プロデュース論」の講義時間に約 90 名の学生を対象に開催されました。

セミナーとしては、1時限目に出席した学生もいるため、1時限目と同じ内容のほかに、1時限目からの出席者については、具体的にアイデア発想シートへの記入と発表も行われました。

急遽編成したチーム発表では、「チームベジタブル」が路上ライブ関係のアイデア、「チームボンバー」

が市場調査関係のアイデアの発表があり、朝に説明を受け、2 時限目で発想し発表したアイデアとは思えない内容でした。

昨年の感想を話す岡村君



3 時限目の様子



#### 【4時限目】 午後 15 時 30 分～16 時 30 分

「地域経済デザインコース」の 23 名を対象に開催されました。

既に1時限目と3時限目に講義を受けているため、4名～6名の6班に分かれ、各人のアイデア発想シート 아이디어を基に、班としてのビジネスモデルの検討がされました。

大学の林教授、中村教授、山根先生、佐藤先生、ICT ビジネス研究会の明神氏、大錦氏、先輩の岡村君らのアドバイスを受けながら、各班とも違ったテーマでのビジネスモデルを発想し、代表者により発表がされました。

発表された 6 つのビジネスモデルは、必ずしも完成されたものではありませんでしたが、ビジネスモデル発表会に向けて、若者の発想力と将来性を強く感じられるものでした。

アドバイスする林教授と岡村君



4 時限目の様子



経済学部経済学科の先生方は、第三回ビジネスモデル発見&発表会に向け、多くの学生に参加・経験してもらうため、相談やアドバイスを積極的に行う予定にしています。

また、ICT ビジネス研究会の協力を得て、プレゼンの練習やブラッシュアップセミナーの開催も検討しています。

#### 【第三回ビジネスモデル発見&発表会・関東大会】

主催: ICT ビジネス研究会

共催: 総務省関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/press/28/0720re2.html>

#### 連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者: 道祖土、本郷 電話 : 03-6238-1680 FAX : 03-6238-1698

## 関東大会で4団体に全国大会出場権を授与

関東総合通信局は、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、ICTビジネス研究会と共催で 1 月 30 日(月)に埼玉県さいたま市のソニックシティ国際会議室において、「第3回ビジネスモデル発見&発表会」関東大会の表彰式を開催しました。

平成 29 年 1 月 30 日(月曜日)午後 1 時よりソニックシティ国際会議室において、「第 3 回ビジネスモデル発見&発表会」関東大会の表彰式を開催いたしました。

当日は、主催者の挨拶後、キャンパス部門 6 組、ビジネス部門 8 組のプレゼンが行われました。

審査委員会では、各賞のほか、来る 3 月に開催される全国大会への出場される各部門 2 組、合計 4 組の代表が決定され、結果発表と各賞の表彰がされました。

会場には、参加者を応援する方々を含め、約 70 名の方にご参加いただきました。

### 【主催者挨拶】

最初に主催者を代表し一般社団法人テレコムサービス協会関東支部 会長の瀧波 寿太郎氏よりご挨拶があり、その後、ICTビジネス研究会 ビジネス創出実行委員会 主査の小川 清氏よりご挨拶を頂きました。最後に共催者である総務省関東総合通信局長の高崎 一郎より挨拶をいたしました。

瀧波会長



小川主査



高崎局長



### 【審査委員紹介】

司会者より、今回の審査を担当する審査委員7名の紹介がされました。

- |       |       |                        |
|-------|-------|------------------------|
| (委員長) | 伊藤 洋  | 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会 顧問 |
| (委員)  | 原 真志  | 香川大学ビジネススクール研究科長 教授    |
| (委員)  | 宮崎 重則 | (株)光通信 副会長             |
| (委員)  | 若林 福成 | 地域コンテンツビジネス・酒蔵経営       |
| (委員)  | 飯塚 重善 | 神奈川大学 経営学部 准教授         |
| (委員)  | 松本 沙織 | 特定非営利活動法人Eーمام 理事      |
| (委員)  | 東崎 俊久 | (株)アイ・オー・データ機器 社長室     |

### 【発表会】

発表会の最初は、キャンパス部門の6組による7分間のプレゼンで、司会の高木 麻弥子氏による団体名と作品名の紹介がされたあと、舞台上でそれぞれの発表が行われました。

- 1 山梨県立大学 イエローアルプス  
「にんさんアプリ」



4 関東学園大学 チーム太☆郎

- 2 関東学園大学 経済学部  
「1人暮らし向け料理レシピ」



5 山梨県立大学

- 3 山梨県立大学  
「国ごと育児ゲーム」



6 関東学園大学 BORDERLESS

「干柿」で神流町を活性化！」



「鼻歌作曲サービス」



「地方内・地方・都市を繋ぐ「まちプロネット」



休憩をはさみ、ビジネス部門8組のプレゼンが続いて行われました。

1 (株)プロデュース多摩  
「スマートアイシステム」



2 アゴリア(株)  
「マンション管理組合理事会向け  
問題解決 SNS 「Air Community」」



3 岩田 治幸  
「ARゴースト トレーナー」



4 (株)コミュニティネット  
「育児・介護施設予約情報アプリ  
WORK + (ワークプラス)」



5 (株)リコジュ  
「リコール情報の提供「リコジュ」」



6 rich Table Inc.  
「Quippy」



7 コスモボックス(株)  
「修学旅行「MANA-TABI」プロジェクト」  
訪問先地域の魅力を映画で発信



8 スマートメディカル(株)  
「音声から気分情報を測定する  
Empath」



司会の高木 麻弥子 氏



### 【ファイトセミナー】

審査委員会による審査の時間を利用し、特定非営利活動法人Eー맘 理事の松本 沙織氏により、「多様な「個」の連携という働き方」と題して、ファイトセミナーが開催されました。

講演する松本氏



会場の様子



### 【結果発表&表彰式】

審査結果が司会者から発表され、各賞の表彰が行われました。



### <ビジネス部門>

● スポンサー賞(IOデータ賞)

No. 4 (株)コミュニティネット  
今井 房子氏

「育児・介護施設予約情報アプリ  
WORK + (ワークプラス)」



プレゼンター: 東崎 俊久氏

● スポンサー賞(光賞)

No. 6 rich Table Inc.  
テリー ブラウン氏

「Quippy」



プレゼンター: 宮崎 重則氏

● 地域振興賞

No. 1 (株)プロデュース多摩  
榎 啓子氏、富永 一夫氏

「スマートアイシステム」



プレゼンター: 松本 沙織氏

### <キャンパス部門>

● 最優秀賞/総務省関東総合通信局長賞

● 最優秀特別賞/ICTビジネス研究会キャンパス賞(全国大会出場権)

No. 5 「鼻歌作曲アプリ」 山梨県立大学 八鍬 祐治氏



プレゼンター: 高崎 一郎 局長



プレゼンター: 小川 清氏



プレゼンターと受賞者

● 優秀賞/関東ICT推進 NPO 連絡協議会賞

● 優秀特別賞/ICTビジネス研究会キャンパス賞(全国大会出場権)

No. 4 「干柿」で神流町を活性化!」 関東学園大学 チーム太☆郎

橋本 希望氏、中島 美樹氏、小林 まりあ氏、松本 美樹氏



プレゼンター: 伊藤 洋 審査委員長



プレゼンター: 小川 清氏



プレゼンターと受賞者

### <ビジネス部門>

● 最優秀賞/テレコムサービス協会関東支部会長賞(全国大会出場権)

No. 6 「Quippy」 rich Table Inc. テリー ブラウン氏



プレゼンター:瀧波 寿太郎 会長



プレゼンターと受賞者

●優秀賞/ICTビジネス研究会ビジネス賞(全国大会出場権)

No. 7 「修学旅行「MANA-TABI」プロジェクト ~小中学生が訪問地域の魅力を映画で発信~」  
コスモボックス(株) 古新 舜氏



プレゼンター:若林 福成氏



プレゼンター:小川 清氏



プレゼンターと受賞者

【総評及び閉会】

審査委員会を代表して、伊藤審査員長から関東大会での発表作品への総評が話され、来る3月の全国大会では、関東代表として是非とも全国制覇を成し遂げてほしいとのエールが送られました。

最後に若林氏により閉会の挨拶があり関東大会が終了しました。

総評をする伊藤審査委員長



閉会挨拶する若林氏



【集合写真】



(参考)

当日の様様については、関東ICT推進NPO連絡協議会のフェイスブックにアルバム掲載されています。(FB:<https://www.facebook.com/kanto.ictnpo>)



## 連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、本郷 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## わがまちCMコンテスト 2016 の表彰式を足利市で開催

関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、わがまちCMコンテスト実行委員会と共催で 2 月 26 日(日)に栃木県足利市のユナイテッド・シネマアシコタウンあしかがにおいて、「わがまちCMコンテスト 2016」の表彰式を開催しました。

平成 29 年 2 月 26 日(日曜日)午後 12 時 50 分より栃木県足利市のユナイテッド・シネマアシコタウンあしかがにおいて、「わがまちCMコンテスト 2016」の表彰式を開催いたしました。

わがまちCMコンテストは、関東総合通信局と関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会が平成 21 年度から開催しているオリジナルコンテストで、地域の魅力を再発見し、その魅力を 30 秒の映像で広く地域に発信するものです。

表彰式は、各自治体の協力のもと、東京都調布市、埼玉県川口市、栃木県小山市、神奈川県藤沢市、千葉県佐倉市で開催しています。さらに平成 24 年度からは、栃木大会として栃木県の小山市、さくら市、野木町、下野市でも開催して来ました。

また、市町村を対象として、平成 19 年度の旧・栃木県大平町での開催をはじめ、茨城県龍ケ崎市や山梨県丹波山村、東京都多摩市の各地で CM コンテストも開催しています。

関東地域を対象とするコンテストの表彰式の開催地としては、8カ所ですが、初めて映画館の大スクリーンを利用した開催となりました。

当日は、応募 113 作品の中から一次審査を通過した 50 作品を上映し、審査委員による最終審査で、奨励賞、優秀賞、そして最優秀賞が選ばれ、各プレゼンターより表彰がされ、各受賞者に賞状及び楯が授与されました。

会場には、作品の制作者及び関係者を含め、約 180 名の方に参加をいただきました。

### 【主催者挨拶】

最初に主催者を代表し、高崎 一郎 総務省関東総合通信局長より挨拶があり、その後、開催地の和泉 聡 足利市長よりご挨拶をいただきました。

高崎局長



和泉市長



スクリーン



### 【審査委員紹介】

司会者より、今回の審査を担当する審査委員 4 名の紹介がされました。

- ・ 加藤 靖 宇都宮ケーブルテレビ株式会社 取締役
- ・ 長 暁子 映像制作会社(EIZO LABO) 代表
- ・ 井汲 義晃 一般社団法人足利市観光協会 事務局長
- ・ 浜田 陽一 株式会社ハマダ 代表取締役

### 【作品の上映】

普段、映画を上映している大スクリーンで一次審査を通過した 50 作品を上映しました。

### 【ライブ&トーク】

審査員による最終審査の時間を利用し、足利まち映画「夢色の川」で主演と音楽監督を務められた、ゆい だいき氏によるミニライブが行われました。

また、会場が一体となる「じゃんけん大会」も急遽開催され、大いに盛り上がりました。



左は司会の藤橋氏と手島氏。中央及び右側がライブ中のゆい氏。

### 【表彰式】

審査委員会により厳正な審査が行われ、審査員及び主催者により、受賞作品名が読み上げられ表彰が行われました。

表彰後、司会の手島 実優氏から受賞者へのインタビューも行われ、受賞者から喜びの一言が話されました。

### <あしかがご当地部門>

奨励賞2作品の表彰を浜田審査員、優秀賞1作品及び最優秀賞1作品の表彰を井汲審査員より行われました。

- ・奨励賞 浦山 ひな 「日本最古の学校」
- ・奨励賞 堤崎 楓雅 「国宝ゲットだぜ！」
- ・優秀賞 鶴見 裕也 「古くて、あたらしいまち「足利」」



左から審査員の井汲氏と浜田氏。表彰は、奨励賞の浦山氏と堤崎氏、優秀賞の鶴見氏。

- ・最優秀賞 望月 成高 「ごめんね」



### <一般部門>

奨励賞5作品の表彰は、長審査員より行われました。

- ・奨励賞 遠藤 真帆 「多摩区の鼓動」(神奈川県川崎市)
- ・奨励賞 下野市シティプロモーション課  
「下野市」知名度向上目指します」(栃木県下野市)
- ・奨励賞 筑波大学 食と酒東北祭り実行委員会  
「創れる場所「つくば」」(茨城県つくば市)
- ・奨励賞 福島 悠加 「いってきます、多摩区」(神奈川県川崎市)
- ・奨励賞 後藤 駿治 「今、走り出したくなる町」(神奈川県川崎市)



左から遠藤氏、長審査員、下野市、筑波大学、福島氏、後藤氏。

優秀賞2作品の表彰を加藤審査員より行われました。

- ・優秀賞 川添 竜平 「俳句のふるさと さかいがわ」(山梨県笛吹市)
- ・優秀賞 筑波学院大学 チーム猫の手 「パンの街 つくば」(茨城県つくば市)



左側:筑波大学食と酒東北祭り実行委員会

右側:川添氏

最優秀賞の表彰は、高崎局長より行われました。

- ・最優秀賞 アーツサウンドビジネス専門学校 「るるん まえばし」(群馬県前橋市)



表彰を受けるアーツサウンドビジネス専門学校 小田部氏

### 【集合写真】



(参考)

当日の様様については、関東ICT推進NPO連絡協議会のフェイスブックにアルバム掲載されています。(FB:<https://www.facebook.com/kanto.ictnpo>)

- 主催： 総務省関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、  
わがまちCMコンテスト実行委員会
- 後援： 栃木県、(公社)栃木県観光物産協会、足利市、足利市教育委員会、下野新聞社、  
とちぎテレビ、NHK宇都宮放送局、栃木県ケーブルテレビ連絡協議会、  
わたらせテレビ(株)
- 協賛： (一社)足利市観光協会、足利商工会議所
- 協力： 足利銀幕会議、足利ごっこの会、まち映画制作事務所

## 連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、本郷 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## わがまちCMコンテスト2016かながわ大会表彰式を小田原市で開催

関東総合通信局、関東ICT推進NPO連絡協議会は、3月20日(月)に神奈川県小田原市において、わがまちCMコンテスト2016かながわ大会の表彰式を開催しました。

平成 29 年 3 月 20 日(月)13 時から、おだわら市民交流センターUMECO において「映像で見つけよう、わが町の隠れた魅力」をテーマに『わがまち CM コンテスト 2016 かながわ大会』表彰式を開催しました。

### おだわら市民交流センター UMECO



本大会は、去る2月26日に栃木県足利市において表彰式が開催された「わがまちCMコンテスト2016」への応募作品のうち、神奈川県内から応募された79作品について、地域の視点で改めて審査し表彰を行うものです

#### 【主催者挨拶・開催地首長挨拶・審査員紹介・協賛紹介】

主催者の須田秀晴 総務省関東総合通信局情報通信部長の挨拶から始まり、続いて開催地の加藤憲一 小田原市長の歓迎の挨拶がありました。

続いて来賓(和田重宏:小田原市教育委員会教育委員長)と審査員 3 名(宮島真希子:NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ 理事、早川千絵:映画監督、牛頭進:東京ビデオフェスティバル事務局長)、協賛 3 社(パナソニック(株)、サイバーリンク(株)、エリートスクリーンジャパン(株))の紹介の後、応募 79 作品を上映いたしました。

関東総合通信局 情報通信部長 須田秀晴	小田原市 加藤憲一市長	審査員 宮島真希子氏	審査員 早川千絵氏	審査員 牛頭進氏

また、作品上映後の休憩をはさんでアトラクションとして、外郎売りの口上研究会による「外郎(ういろ)売りの口上」が披露されました。

#### 外郎売りの口上



#### 【入選作表彰式】

表彰式では優秀賞 5 作品の表彰を 3 名の審査員がされ、準グランプリ表彰を杉浦幹事、グランプリの表彰を須田部長が行いました。(以下、敬称略)

#### <優秀賞>

- ・川本 たいち(小学生)  
「小田原紹介1」(小田原市)
- ・藤田 英里香(大学生)  
「いつもの日が、ちょっぴりすてきに。」(川崎市)
- ・THE 辻堂駅 100 周年 Yeah! (小学生3名)  
「オレの街！」(藤沢市)
- ・伊藤 佳祐 (大学生)  
「多摩区の 3 つの魅力とは？」(川崎市)
- ・くまだモン(高校生6名)  
「心あたたまるまち、たまプラーザ」(横浜市)

#### 優秀賞表彰の様



<準グランプリ>

・後藤 駿治 (大学生)

「今、走り出したくなる町」(川崎市)

準グランプリ表彰の様様



<グランプリ>

・永瀬 棕子 (高校生)

「この町の自転車屋さん」(綾瀬市)



作品はいずれも地域の魅力にあふれており、当日午前中に開催した最終審査会では約2時間をかけて、表彰7作品を決定しました。

会場には、作品制作関係者をはじめ、約90名の方にご参加いただき、大変盛り上がりました。表彰式の後、関東ICT推進NPO連絡協議会神奈川県幹事の杉浦氏による閉会挨拶で表彰式を締めくくりました。





(参考)

当日の様様については、関東ICT推進NPO連絡協議会のフェイスブックにアルバム掲載されています。  
(FB: <https://www.facebook.com/kanto.ictnpo>)

主催:総務省関東総合通信局

関東ICT推進NPO連絡協議会

後援:小田原市

協賛:パナソニック株式会社

サイバーリンク株式会社

エリートスクリーンジャパン株式会社

連絡先

関東ICT推進NPO連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、真庭 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## 第1回かんとNPO映像祭の表彰式を開催

関東総合通信局は、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、かんと NPO 映像祭実行委員会と共催で 2 月 12 日(日)に神奈川県藤沢市の新堀ライブ館において、「第 1 回かんと NPO 映像祭」の表彰式を開催しました。

平成 29 年 2 月 12 日(日曜日)午後 1 時より神奈川県藤沢市の新堀ライブ館において、「第 1 回かんと NPO 映像祭」の表彰式を開催いたしました。

当日は、主催者の挨拶後、応募 35 作品の中から 1 月 31 日(火曜日)に開催された一次審査を通過した入選 20 作品を上映し、かんと NPO 映像祭実行委員会より入選の賞状が授与されました。

さらには、入選作品の中から審査委員会により、優秀賞 3 作品、準グランプリ 1 作品、グランプリ 1 作品が選ばれ、各プレゼンターより、受賞作品名が発表され、各受賞者に賞状及び楯が授与されました。

会場には、作品を制作した学生や作品で紹介された団体など約 80 名の方に参加をいただきました。

### 【主催者挨拶】

最初にかんと NPO 映像祭実行委員会 実行委員長の森 康祐氏より挨拶があり、その後、総務省関東総合通信局長の高崎 一郎より挨拶をいたしました。

森実行委員長



高崎局長



司会の石井 さわか氏



### 【審査委員紹介】

司会者より、今回の審査を担当する審査委員 3 名の紹介がされました。

(委員長) 川合 康央 文教大学情報学部 准教授

(委員) 小池 征人 映画監督

(委員) 堀 千鶴 認定 NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会 理事

### 【入選 20 作品の上映及び表彰】

入選 20 作品を 4 つのブロックに分け上映が行われ、上映後に作品の制作者及び映像で紹介された団体に対して、川合審査委員長から賞状が授与されました。

その後、森実行委員長より制作者及び紹介団体へインタビューが行われ、制作者の思いや今回紹介された団体の活動などが紹介されました。

入選の賞状授与の様様 (第1グループ)



インタビューする森実行委員長



## 【表彰式】

審査委員会により厳正な審査が行われ、審査員 3 名及び主催者 2 名のプレゼンターにより、受賞作品名が読み上げられ表彰が行われました。



左から須田部長、杉浦幹事、堀審査員、小池審査員、川合審査委員長

### <優秀賞>

堀審査員、小池審査員及び川合審査委員長より優秀賞の作品が発表され、賞状及び副賞が授与されました。

- 1 「びーの de サンバ」 制作者・団体名：NPO法人びーのびーの(横浜市)
- 2 「みかんの楽校」 制作者：神奈川大学 団体名：みかんの楽校(伊勢原市)
- 3 「ダンスの力を信じて”障がい”という垣根をなくしたい」  
制作者：専修大学 団体名：ダンスラボラトリー(川崎市)

NPO法人びーのびーの

神奈川大学

専修大学



堀審査員より表彰



小池審査員より表彰



川合審査委員長より表彰

### <準グランプリ>

関東ICT推進NPO連絡協議会の神奈川県幹事の杉浦 裕樹氏より準グランプリ作品の発表が行われ、その後、表彰及び講評が行われました。

作品名「グランペ クライミングスクール」

制作者：藤沢総合高校 団体名：グランペ クライミングスクール(平塚市)



受賞作品を発表する杉浦幹事



杉浦幹事より表彰



受賞者の喜びの声

### <グランプリ>

関東総合通信局情報通信部長の須田 秀晴よりグランプリ作品の発表が行われ、その後、表彰及び講評が行われました。自然の中で遊ぶ、子どもたちの声と蝉の声が特徴的な作品です。

## 作品名「夏の声」

制作者:産業能率大学 (山本 茉胡、福仲 香南)

団体名:NPO法人子どもと生活文化協会(小田原市)



受賞作品を発表する須田部長



須田部長より表彰



受賞者の喜びの声

## 【審査員総評】

今回のかんとうNPO映像祭の審査を担当された3名の審査員より、それぞれの思いや作品へのアドバイスを含めた感想が話されました。



堀審査員



小池審査員



川合審査委員長

## 【閉会】

関東ICT推進NPO連絡協議会神奈川県幹事の杉浦 裕樹氏より閉会の挨拶がありました。

今回応募された作品で紹介された地域のNPOやボランティア団体の活動が映像を通じて、今後多くの方々に知っていただきたいこと、また作品を制作した高校生や大学生の若者と取材を通しての交流も大変有意義なことであるなどが話されました。

## 【集合写真】



(参考)

当日の様様については、関東ICT推進NPO連絡協議会のフェイスブックにアルバム掲載されています。(FB:<https://www.facebook.com/kanto.ictnpo>)

## 連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、本郷 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## 第 4 回協働型災害訓練 in 杉戸

杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会(主幹:NPO法人すぎとSOHOクラブ、同法人NPO 埼玉ネット)は、市民キャビネット災害支援部会、同スマートICT部会、立正大学地球環境科学部との共催で、平成 29 年 2 月 3 日(金)~4 日(土)、杉戸町において、「第 4 回協働型災害訓練 in 杉戸」を開催しました。

東日本大震災の経験と教訓を生かすべく、平成 25 年度国土交通省広域的地域間共助推進事業としてスタートした「協働型災害訓練」。大規模災害時には一人でも多くの命を助けるために、効率と統一された災害対応が必要になります。

この訓練では、米国で誕生した災害版 ISO と呼ばれる ICS (Incident (現場) Command (指揮) System (システム)) を用い、将来発生し得る大規模災害発生時に即時助け合いの対応ができる仕組みをつくることを目指しています。

今回は 4 回目の開催として、これまでも行われてきた ICS を活用した図上訓練のほか、昨年 4 月に発生した熊本地震における支援活動報告、ドローンを使用したデモンストレーションも行われました。

## 〈開会式〉

主催・来賓を含め 12 名もの方にご出席いただきました(古谷杉戸町長、滝沢富岡副町長、猪狩川内副村長、鈴木衆議、三ツ林衆議、古川参議、関口参議、岡県議、白土県議、榎本宮代町長、坪田杉戸議長、関根さいたま市議)。

来賓の他にも埼玉県危機防災管理課、杉戸警察署からも見学があり、年々高まるこの訓練に対する関心の高さが伺えました。



## 〈熊本地震支援活動報告 1〉

これまでの訓練で ICS を学び、熊本地震で活躍した団体からのレポート。

九州救助犬協会の坂本さんからは二次被害を防ぐ大切さを、MMIXLAB の村上先生からは八代市に前線基地を作り支援にあたった報告を頂きました。



## 〈アイスブレイク〉

今回初めてトライした「きづな引き」。

ただの綱引きでしょ？と思うなかれ、これが熱く、そしてしんどいw。

その場で結成したチームにも関わらず、若手からベテランまでが一生懸命。すごい熱気でした！



#### <シェアリングタイム>

地域医療と熊本での活動を報告してくださったお二人からのシェアリング。

地域の力はコミュニティデザイナーにあり！をすすめる東埼玉総合病院の中野医師、熊本地震で実際に薬剤師支援をした SFC 薬局の関谷薬剤師さんありがとうございました。



#### <ICS を活用したDIG (図上訓練) >

監修・指導を頂いている立正大学後藤教授によるチェックインタイムから。

訓練では iPad を多用し、訓練時のアクションをその場でレコーディングする試みを実行。

そして今回も福島県富岡町・川内村からも多くの職員が参加してくれました。

さらに今年からは埼玉県危機防災管理課・杉戸警察署からも参加があり、来年もぜひ参加したとの声を頂きました。



#### <番外編>

訓練の終わりには、4 月から避難解除が行われ新しい一歩を踏み出す富岡町滝沢副町長自らから

現場レポートを伝えていただきました。



## 2日目のふりかえり

### <熊本地震支援活動報告2>

岩手県大槌町で「復活の薪」で復興支援をしている吉里吉里国の横路さんのお話からスタート。

そして、マイクロソフトが杉戸町にやってきた！龍治さんから同社のミッション「いついかなる時も」を忠実に実行し、熊本地震の際にオフィス 365 を無償提供した支援レポート。

JVOAD 明城さんからは同地震で支援 NPO をまとめてみると見えてきたことをフィードバック。

小澤主査からは杉戸町でも誰にも知られていない熊本支援があり、熱意と行動力で物資を届けた出来事を報告。



### <シェアリングタイム2>

総務省関東総合通信局から会場にも展示をしているLアラート（災害情報共有システム）について室長自ら解説。

東洋大学八木准教授からは広島豪雨災害で見えてきた被災地の福祉的視点についてのシェアリング。



### <エクスペリエンスタイム>

お待ちかねのドローンの飛行実演。

今回は立正大学後藤研究室のドローン班と株式会社測設の酒井さん、全日本救助犬協会がコラボ

し、救助犬活動の様子をドローンで撮影するという試み。



さらに、高度 50m から撮影した 40 枚の写真から会場建物を 3D 化アクションにトライ。上映時、会場ではどよめきが起こりました (3D 画像はこちらからご覧いただけます (<http://bit.ly/2lqtpXh>))。



#### <HUG>

市民キャビネット上村講師による避難所運営ゲーム。

今年は杉戸町自主防災組織の方も参加して各班でチームワークを発揮していました、さすが支援のプロたちです。



#### <プロポーザルワークショップ>

最後は2日間の振り返りも兼ねて各班でワークショップを行いました。

またこの場で会いましょう！という発表をした班もあり、この訓練が「つながる場」であることを印象付けるものでした。





<<最後に>>

これからは地域に根ざしていくことと、  
私たちが目指す後方支援自治体の取り組みを広げて行くこと  
に注力していきたいと思えます。

次回第5回の訓練のキーワードは「脱皮」。

協働型災害訓練は新しいステージへ参ります！！

引き続き皆様のご支援とご協力、そしてご参加をよろしくお願いいたします！！

(特定非営利活動法人すぎとSOHOクラブ 豊島)

## まちづくりシンポジウムを栃木県小山市で開催

関東総合通信局は、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、NPO 法人ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地、まちかど美術館異業種交流まちづくり勉強会、NPO 法人栃木県シニアセンターと共催で 2 月 19 日(日)に栃木県小山市において、まちづくりシンポジウムを開催しました。

当日の様様について、主催者より報告がありましたので、ご紹介します。

平成 29 年 2 月 19 日(日曜日)午後 2 時より小山市まちなか交流センター「おやま〜る」において、総務省関東総合通信局並びに関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、NPO 法人栃木県シニアセンター、そして異業種交流まちづくり勉強会のお力添えを得て、「まちづくりシンポジウム」を約 50 名の方にご参加いただき開催しました。

### 【開会挨拶】

NPO 法人ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地 代表理事 中手 淳子より主催者挨拶をし、小山市教育長 酒井 一行氏より小山市長からのメッセージと祝辞を頂きました。

共催者である総務省関東総合通信局情報通信部長の須田 秀晴氏からは、関東総合通信局の情報通信政策及び地域と連携し ICT を利活用して地域課題に取り組む NPO 等への活動支援について話がされました。

中手代表理事



酒井教育長



須田部長



### 【第1部】 テーマ「SNSを活用した情報発信」

小山市秘書広報課シティープロモーション係長の坂本 幸江さんは、クイズなどを盛り込んで小山市の全国認知度を面白く解説し、「おやま広報連絡特派員システム」により小山市の魅力を広く情報発信し、知名度アップや来訪者増加、さらには移住・定住促進につなげたいと話されました。

広報連絡特派員の門馬 悠一さんは、自身の複数の SNS(ブログやフェイスブック、ツイッターなど)を使って情報発信し、そのリアクションの内容や実績(件数、リーチ、いいね、シェア等の数)と上位 3 件の投稿内容を月別にまとめ、これからの取り組みや広報連絡特派員の役割について話されました。

解説する坂本氏



左から坂本氏、門馬氏



### 【第2部】 テーマ「暮らしたいまち、心地よいまちを創る」

<パネラー：根本 泰昌 氏>

大学卒業後、東京の大手製薬会社に勤めていた根本さんは、2006 年宇都宮市中心部オリオン通り商店街にY's tea（ワイズティー）ネットワーク(株)を設立し、ティールームと小売りの「世界のお茶の専門店 Y's tea」をオープンしました。

「一杯の紅茶で人と地域を元気に」をコンセプトに、「思い」と「ストーリー」を込めたオリジナルブレンド紅茶やハーブティーを生み出して来ました。そして、宇都宮市の紅茶消費量を 43 位から全国 1 位にし、新たなブランドを作る起業家として周知され、ご当地紅茶づくりの相談を各地から受けるようになり、航空会社やフランス大使館からもオリジナルティーの依頼を受けるなど、益々グローバルな活躍が期待されています。

当初より、まちづくりにも力を入れ市民団体「宇都宮街づくり大学」を設立し、地域活性化や小学校のクラブ活動等で紅茶に親しむ活動、生涯学講座で紅茶教室を行うなど幅広い取り組み内容について話されました。

<パネラー：増子 春香 氏>

増子さんは、自身の3つの立場(ワイン醸造家で家業の会社役員、育児中の母、NPO 法人コムラボの理事兼事務局)をまず紹介されました。それらの生活体験を通して、仕事が衰退し少なくなっている地方では、若い人、特に子育て中の若いお母さんに「食べていける仕事」が必要であると話されました。

所属する NPO 法人コムラボでは、そのような「地域の新しい、やりたい、叶えたいを形にしていこう」と目指しており、さらに、東京の仕事をクラウドソーシングで受け、田舎で出来るように、今はライターとイラストレーター養成講座を開いて希望者の支援をしていると話されました。

また、家業を通して感じたのは、ワイナリーを造るとその周りに店ができ、人が集まって来て「まち」が立ち上がっていくのをいろいろな地域で見られるので、急がず永く穏やかにやっっていき、結果として「まちづくり」になったという自然体が良いのではないかと話されました。

<パネラー：石橋 利也 氏>

石橋さんは、国立木更津高等専門学校卒業後、コマツ小山工場で産業用ロボット開発に携わり、その後ベンチャー企業などを経て、2006 年合同会社イーヴァを設立され、近年は子ども向けのプログラミング教育や自社開発商品「のセラジ」の商品化を目指すなど、新たなものづくりの可能性を模索されています。子ども達にプログラムの作り方を教え、「ものづくりの楽しさを伝えたい」、小山には小山高専や関東職業能力開発大学校などがあり、「ものづくり」の土壤があると話されました。

自分は、まちへの愛着は希薄であったが、やりたいことがある環境に移動し、現在住んでいる小山市土塔に新しい商店街が 4 年前にでき、そこで夏祭りをやることになり、それが広がり土塔エリアを盛り上げるイベントになった。そして、商店街だけでなく地域を盛り上げるマップを作ろうということになり、賛同者を広げていった。

やりたいこと、やっていることを考えるだけでなく、口で言ったり、SNS やネットで友人に相談すると周りに協力者が集まってきて、マップ作りが実現した。

技術屋として仕事をしてきた人間としての夢は、「ものづくりのまち」になればという思いを持ち、力まず発信していくことが良いのではと話されました。

大森氏



パネラー： 左から石橋氏、根本氏、増子氏



<コーディネーター：大森 豊 氏>

取り組みや方向性の違うパネラーの発言をコーディネーターの宇都宮大学 准教授の大森さんは、整理・

補足され、また会場の参加者を巻き込み、パネラーだけでなく参加者と一緒に考えるパネルディスカッションとなりました。

参加者によるディスカッションの様子



パネル展示



今回のシンポジウムでは、休憩中にスタッフ総出でY's teaのオリジナル紅茶「SAKURA」を入れておもてなしするなど、和やかな交流タイムも生み出しました。

最後に関東総合通信局並びに関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会に多大なお力添えを頂きましたこと厚く御礼申し上げます。

主催： NPO 法人ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地  
まちかど美術館異業種交流まちづくり勉強会

共催： 総務省関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、NPO 法人栃木県シニアセンター

## 連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、本郷 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## インターナショナル・オープンデータ・デイ 2017@横浜

横浜オープンデータソリューション発展委員会は、平成 29 年 3 月 4 日(土)、横浜市において、インターナショナル・オープンデータ・デイ 2017@横浜を開催しました。  
 関東ICT推進NPO連絡協議会は「地域活動支援事業」として位置づけ、開催に協力しました。

昨年 1 2 月、官民データ活用推進基本法（平成 28 年 12 月 14 日法律第 103 号）が制定され、これまで、全国の自治体が手探りで進めていた、データとデジタルテクノロジーを活用した地方創生や 1 億総活躍に向けた取り組みに法的根拠が与えられました。

これによって、各自治体のオープンデータの取組が加速度的に進むとともに、市民生活の向上や行政改革に寄与する具体的な成果がより求められるようになります。

今年の「インターナショナルオープンデータデイ@横浜」は、この 5 年間、市民、企業、大学、議会、行政が手を取り合って進めてきた横浜のオープンデータの取組を総括し、そのうえでこの「官民データ活用推進基本法」を礎にして、みんなで次のステージへと駆け上げるための対話の祭りです。多様な主体による幾つものセッションやワークショップを通じて、オープンデータとデジタルテクノロジーがどのような形で地域経済の活性化や働き方改革、そして社会問題の解決に役に立つのかをとことん話し合い、「官民データ活用推進基本法」を横浜で具現化するための政策や仕組み、事業やプロジェクトを案出し、志を同じくする全国の、そして世界の都市に向けて発信します。そして、この日の対話の成果を官民の共創によって、次々と形にすることで、既存の社会経済のあり方を革新し、横浜を世界最先端のデジタルシティに、貧困と孤立のない東洋のニューヨークへと変えていきます。

今年も、同時開催として、横浜市経済局が主催「オープンデータ活用ビジネス化支援事業」の事業プラン発表・表彰と、横浜オープンデータソリューション発展委員会が横浜市政策局との協働で推進する「YOKOHAMA YOUTH Ups!2016-2017」の成果発表会を同時に開催しました。

### 【開催概要】

- 1 タイトル：「インターナショナル・オープンデータ・デイ 2017@横浜」
- 2 テーマ： みんなで創発する世界最先端のデジタルシティ・YOKOHAMA
- 3 日時：2017 年 3 月 4 日(土) 10:30~18:45 (10 時開場)
- 4 会場：CIQ プラザ（横浜港大さん橋国際客船ターミナル）
- 5 主催：横浜オープンデータソリューション発展委員会
- 6 共催：横浜市、横浜港大さん橋国際客船ターミナル
- 7 後援：神奈川県、かながわオープンデータ推進地方議員研究会、  
 一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会、一般社団法人リンクデータ、  
 一般社団法人オープン・コーポレイティブ・ジャパン、  
 一般社団法人オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構（VLED）、  
 NPO 法人リンクト・オープン・データ・イニシアティブ
- 8 協力：学校法人岩崎学園 情報科学専門学校、総務省関東総合通信局、  
 関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、一般社団法人 Code for Japan、Code for  
 Kanagawa、Code for YOKOHAMA、code for kohoku、E2D3.org、チームラボ株式会社、  
 COG 推進コンソーシアム（仮称）、寿オルタナティブ・ネットワーク、  
 NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ

### <メインステージ タイムテーブル>

オープニング 10:30~10:45

#### ▽登壇者

小林 巖生（横浜オープンデータソリューション発展委員会 理事）

林 琢己（横浜市経済局長）

進行：宮島真希子（NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ）

10:45~12:15 【1 部：横浜市経済局事業】

「オープンデータ活用ビジネス化支援事業」ビジネスプランプレゼンテーション・授賞式

横浜市経済局が主催する「データ活用ビジネスプラン・ブートキャンプ」に参加する5組のビジネスプランプレゼンテーションとメンターによる講評

10:45～10:50

趣旨説明／メンター・審査員紹介

10:50～11:40

各メンタリング対象団体による事業プラン発表

#### ▽登壇者

##### 1. 「ファインディングマンホール」

発表者：魏 形舩（ギトウレイ）

メンター：本田 正美（島根大学 研究・学術情報機構戦略的研究推進センター 特任助教）

##### 2. 「spot japan for YOKOHAMA」

発表者：志賀 雄太（しが ゆうた）

メンター：山口 豪志（株式会社54 代表取締役社長、株式会社デフタ・キャピタル アクセラレーター 兼 横浜ジェネラルマネージャ）

##### 3. 「睡眠記録データ活用による睡眠の重要性の啓蒙活動と精神疾患治療現場の変革」

発表者：赤澤 寧（あかざわ やすし）

メンター：田邊 雄樹（株式会社primeNumber 代表）

##### 4. 「もしもの時のおまもりアプリ・SNS/幸せな夫婦や家族を増やす未来ラボ」

発表者：ナカヤ タエ

メンター：中山 圭太郎（中山データベース合同会社 代表）

##### 5. 「赤ちゃんから小学校入学まで切れ目なく子育てを支援する場が検索できるアプリ/KONOBA」

発表者：畑中 祐美子（はたなか ゆみこ）

メンター：喜多埜 裕明（Kカンパニー株式会社 代表取締役）、原田 博一（富士通研究所）

11:40～11:55

審査・投票・集計

11:55～12:10

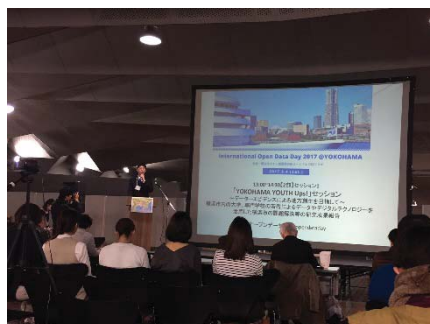
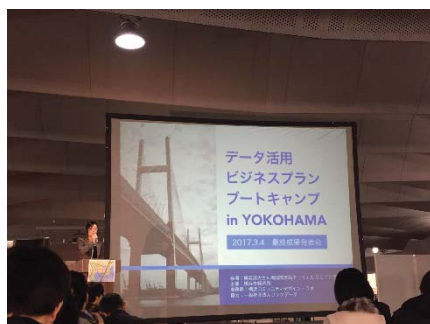
授賞式

12:10～12:15

全体講評（横浜市経済局長）

進行：下山 紗代子（一般社団法人リンクデータ 代表理事）

主催：横浜市経済局



13:00～14:30 【2部】セッション1

#### 「YOKOHAMA YOUTH Ups!」セッション

～データエビデンスによる地方創生を目指して～

横浜市内の大学、専門学校の若者によるデータやデジタルテクノロジーを活用した横浜市の課題解決等の研究の成果報告

▽登壇者：学生

- ・「課題解決型小学生ロボットプログラミング教育」（情報科学専門学校）
- ・「子育て世代が暮らしやすい社会へ～レンタベビーカーの課題と提案～」  
（横浜市立大学 影山ゼミ）
- ・「baybaike の現状と課題分析」（横浜国立大学 居城ゼミ）
- ・「密集市街地の居住モデル」（横浜国立大学 Y-GSA）
- ・「相鉄いずみ野線沿線におけるシビックプライドの醸成とシティプロモーション」  
（フェリス学院大学）
- ・「横浜市金沢区の観光振興」（関東学院大学経済学部 中泉ゼミ）
- ・「Charm ～女の子の身を守るアプリ」の開発（明治学院大学国際学部学生+  
横浜市男女共同参画推進協会）

▽登壇者：企業・教員

- ・河原 勇輝（井土ヶ谷アーバンデザインセンター運営管理/株式会社太陽住健  
代表取締役社長）
- ・松本 紀明（リスト株式会社 広報・宣伝部 課長）
- ・武田 英裕（富士通株式会社 グローバルサービスインテグレーション部門  
戦略企画統括部）
- ・関本 義秀（東京大学生産技術研究所 准教授）
- ・奥村 裕一（東京大学公共政策大学院 客員教授）

進行：関口昌幸（横浜市政策局 政策支援センター）

企画：横浜市政策局政策支援センター、横浜オープンデータソリューション発展委員会

---

14:30～15:20 セッション2

「シェアリングエコノミー」セッション

～市民のチカラ × オープンデータ × シェアリングエコノミー～

オープンデータ×シェアリングエコノミーの活用で地域課題解決を仕事にしている事例、具体的なアクションをサポートするメニューの紹介、市民の仕事を通じて地域の課題を解決する意識の醸成

▽登壇者

- ・甲田 恵子（株式会社 AsMama 代表取締役社長）
- ・岡北 有平（経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 課長補佐）
- ・佐別当 隆志（一般社団法人シェアリングエコノミー協会 事務局）
- ・宮島 真希子（LOCAL GOOD YOKOHAMA/NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ 理事）
- ・関口 昌幸（横浜市政策局 政策支援センター）

▽ファシリテーター

加藤 遼（株式会社パソナ ソーシャルイノベーションチーム チーム長）

企画：一般社団法人シェアリングエコノミー協会

---

15:30～16:30 セッション3

「かながわオープンデータ推進地方議員研究会」セッション

～議会発オープンイノベーション・官民データ活用でチャンスを作る！～

デジタル・テクノロジーを活かしたイノベーションについて議員と神奈川県 CIO が議論。  
横浜市官民データ活用推進基本条例（案）の紹介も。

▽パネリスト

鈴木 太郎（横浜市会 かながわオープンデータ推進地方議員研究会会長）

敷田 博昭（神奈川県議会 かながわオープンデータ推進地方議員研究会副会長）

藁科 至徳（神奈川県 CIO）

伊藤 大貴（横浜市会 かながわオープンデータ推進地方議員研究会幹事）

進行：藤崎 浩太郎（横浜市会 かながわオープンデータ推進地方議員研究会副幹事）

企画：かながわオープンデータ推進地方議員研究会

---

#### 16:30～17:40 セッション4

##### 「リビングラボ×オープンデータ」セッション

～官民共創で働き方改革と生活サービス産業を育成する拠点「リビングラボ」～  
住民と企業や自治体、大学・研究機関等の関係者がデータに基づいて“共創”する場・活動である「リビングラボ」の取組、横浜市内からは都筑区「いのちの木」、旭区「みなまきラボ」、青葉区「WISE Living Lab」と栄区での取り組みを紹介。鎌倉市今泉台で自治会と連携して活動が始まったLivingLab 展開の紹介も。

##### ▽登壇者

###### ▶リビングラボについて

前田 展弘（ニッセイ基礎研究所主任研究員・東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員）

###### ▶事例紹介：ディスカッション

岩永 敏朗（NPO 法人五つのパン 理事）：都筑区で「いのちの木」を運営

高久 真理（大和ハウス 事業開発部 不動産事業開発室 総合開発グループ 課長）

泉 亜紀子（東急電鉄都市創造本部開発事業部 都市政策担当課長）

川口 大治（横浜セイビ 常務取締役、横浜青年会議所 理事、NPO 法人戸塚てらこや 理事長）

西田 司（株式会社オンデザインパートナーズ・みなまきラボ）

田島 幸子（鎌倉市：今泉台町内会 会長）

進行：関口 昌幸（横浜市政策局 政策支援センター）

企画：東京大学産学連携組織ジェロントロジー・ネットワーク LivingLab 研究会

---

#### 17:40～18:30 セッション5

##### 「オープンデータの未来」セッション

～自治体の未来を切り拓くオープンデータ～  
オープンデータ、官民データ連携推進基本法、改正個人情報保護法、IoT、AI、ビッグデータ解析、データサイエンス、オープンイノベーション等のキーワードでオープントーク

##### ▽登壇者

小泉 秀樹（東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻教授）

山中 竹春（横浜市立大学部医学部 教授）

福田 次郎（横浜市 CIO 補佐監／総務局しごと改革室担当部長兼務）

相原 朋子（NTT 東日本 神奈川事業部 コラボレーション推進部長）

・企画：横浜オープンデータソリューション発展委員会

---

#### 18:30～18:45

##### クロージング

##### ▽登壇者

藁科 至徳（神奈川県 CIO）

小林 一美（横浜市政策局長）



## 「はたらきかたシンポジウム」を桐生市で開催

関東総合通信局は、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、ジョブラボぐんま準備委員会及び NPO 法人キッズバレイと共催で 3 月 27 日(月曜日)に群馬県桐生市において、「はたらきかたシンポジウム」を開催しました。  
当日の様様について、ジョブラボぐんま準備委員会より報告がありましたので、ご紹介します。

ジョブラボぐんま準備委員会は、平成 29 年 3 月 27 日(月)午後 7 時より、群馬県桐生市インキュベーション施設1階コワーキングスペース「COCOTOMO」において、「はたらきかたシンポジウム～つなぐことで生み出す新しい価値～」を総務省関東総合通信局並びに関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会、及び NPO 法人キッズバレイのご協力を得て開催しました。当日は、33 名の方にご参加頂きました。

### 【開会挨拶】

共催者である総務省関東総合通信局の本郷力氏と、NPO法人キッズバレイの星野麻美代表に挨拶を頂きました。



(左、総務省関東総合通信局 本郷力氏。 右、NPO 法人キッズバレイ代表星野麻美氏)

### 【第1部 基調講演】

第 1 部は、大丸有「食」「農」連携推進コーディネーターの中村正明氏に、「つなぐことで地方を元気にする」と題して、中村氏のコーディネーターの仕事とその成果についてのお話頂きました。6次産業化の中で、地方を舞台にした活動やプロジェクトの他、大丸有という場所の特性を活かした活動やプロジェクトについての報告を頂きました。

ご自身の経験をベースに、6次産業化をバンドになぞらえて説明し、生産者がメインとなるボーカル、それをしっかり支えるベースが加工業者、というように、広報や販売などの役割と、それらが一体になることで、6次産業化が実現する、という内容でした。

また、関東学園大学などと協働し、様々な地域の中で学生と共にアクティブラーニングで地域課題に取り組む例では、外部からの知恵、行動力など、地域内に不足しているリソースを地域外から持ち込むことで、双方にとってメリットが生まれるような取組や産学連携の実現を意識されていることが印象的でした。



(左：中村正明氏)

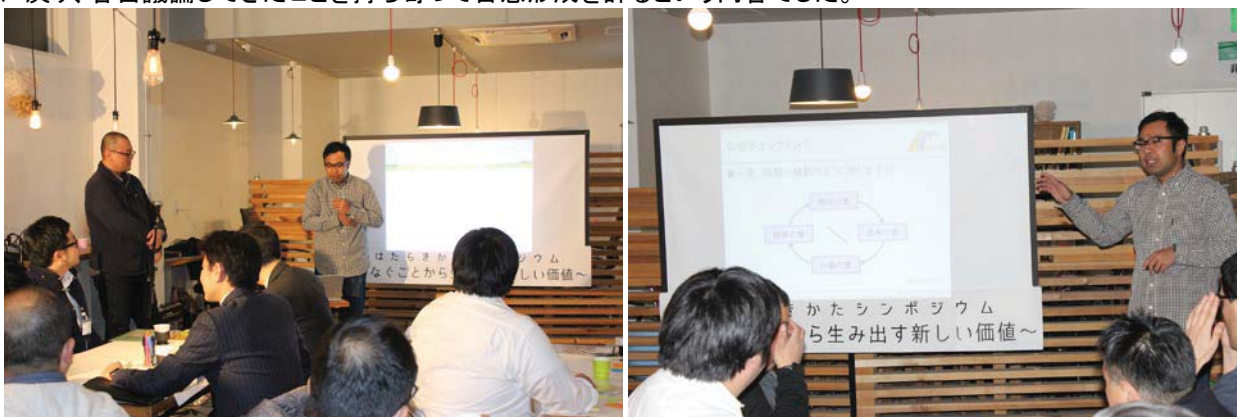
また、全体を通して、大丸有「食」「農」連携推進コーディネーターとして立場だけではなく、地域の様々なリソースの繋ぎ手として、全国で活躍されている状況を考えると、地域の生産者、加工業者など、もっと積極的に情報発信することが重要であると感じました。事業者の価値がコーディネーターに届いているからこそ、新しい連携、新しい価値創造が実現するのだということがわかりました。

### 【第2部 ワークショップ】

第2部は、「つなぐこと」について、参加者同士がコミュニケーションすることで、相互理解をより深めていこうという試みを実施しました。

ジョブラボぐんま準備委員会のメンバーで、((株))リクルート北関東マーケティングの橋本氏と(株)FM 桐生の小保方氏が事務局として、ファシリテーター役などを担いながら、参加者全員でのグループワークを行いました。

構成としては、チェックインで参加者同士の関係を作り、その後、つながりについての考察をワールドカフェ方式で行いました。「なぜ、つながりが大切なのか?」「どうして繋がりたいのか?」を15分で議論、その後、ホスト役を残して他のメンバーは別テーブルに移動し、そこで、別の視点の考察に触れます。そのまま議論し、15分後に再び最初のテーブルに戻り、各自議論してきたことを持ち寄って合意形成を計るという内容でした。

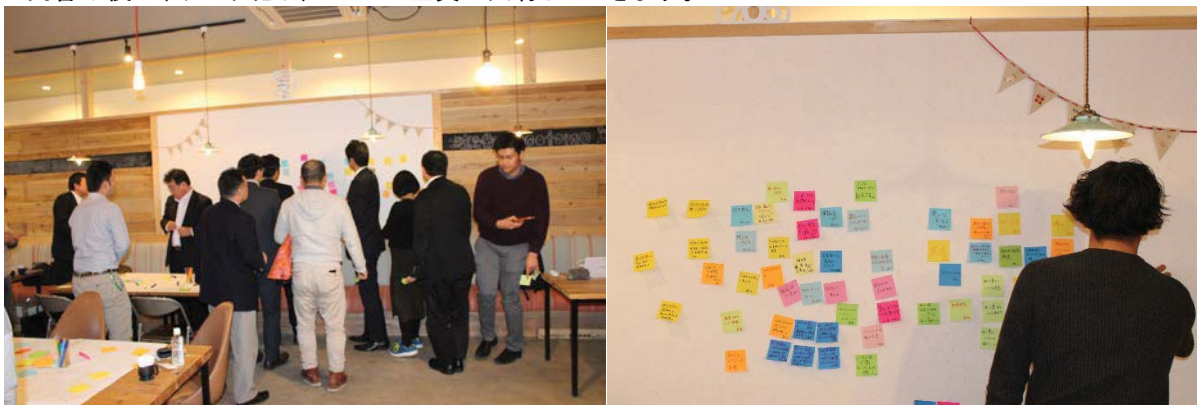


(左:小保方貴之氏、右:橋本琢也氏)

ワークショップは多いに盛り上がり、それぞれがつながりについての探求しました。参加者同士の議論が進むことで、つながりについての合意形成を行うことができました。



最後は、メンバー一人一人が議論の末に感じたこと、気づいたことをポストイットに記入し、壁一面に張り出しました。この内容は後日、データ化し、メンバー全員に共有していきます。



### 【閉会挨拶】

最後は、ジョブラボぐんま準備委員会の宮坂あつこ代表から挨拶がありました。



(左:ジョブラボぐんま準備委員会 宮坂あつこ代表)

宮坂代表からは、「ジョブラボぐんまは起業支援のコミュニティであり、ここから様々なモノ=プロダクト、コト=プロジェクトが生まれていく。4月からは、ラジオプロジェクトが始まり、ラジオ番組を放送していくことが決まった。プロジェクトに参加したい人は是非、声をかけてください」との挨拶がありました。

今回のイベントについては、ジョブラボぐんまのキックオフとなるものであり、今後、群馬県内の様々な地域で実施していく予定ということでした。(了)

(参考)

当日の様様については、関東ICT推進NPO連絡協議会のフェイスブックにアルバム掲載されています。

(FB: <https://www.facebook.com/kanto.ictnpo>)

主催:ジョブラボぐんま準備委員会

共催:総務省関東総合通信局  
関東ICT推進NPO連絡協議会  
NPO法人キッズバレイ

後援:小田原市

協力:株式会社ナカダイ  
有限会社プレス  
株式会社ル・バンブー

連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、真庭 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

## 栃木県内 5 か所で「元気シニアが脳年齢度を知って頑張るタブレット講座」を開催

関東総合通信局、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会は、野木町公民館、栃木市教育委員会、壬生町立生涯学習館、小山市中央公民館、下野市生涯学習センターとの共催で、平成 29 年 2 月、3 月において栃木県内 5 か所の会場で「元気シニアが脳年齢度を知って頑張るタブレット講座」を開催しました。

この講座は、総務省が平成 26 年度に実施した、高齢者の ICT リテラシーの向上、SNS 等のコミュニティ形成による地域活性化等を目指す「ICT 利活用による高齢者の社会参画促進に向けた実証」の際、関東地域から参加した NPO 法人栃木県シニアセンターの協力を得て、高齢者が ICT(タブレット)を安心・安全に、また日常生活において特別なものとして意識することなく、楽しく便利なものとして利活用し、デジタル機器に不慣れ方々も楽しく ICT を理解し、ICT の進展に対応できる機会となるべく実施されました。

講座は以下の 5 会場においてそれぞれ午前・午後の各 2 回、合計 10 回開催され、各講座とも 15 名から 20 名、あるいはそれ以上の参加者がありました。

- 第 1 回 2 月 23 日(木) 栃木県野木町 野木町公民館
- 第 2 回 3 月 16 日(木) 栃木県栃木市 栃木市栃木公民館
- 第 3 回 3 月 23 日(木) 栃木県壬生町 壬生町立生涯学習館
- 第 4 回 3 月 25 日(土) 栃木県小山市 小山市中央公民館
- 第 5 回 3 月 27 日(月) 栃木県下野市 下野市生涯学習センター

各講座とも冒頭に主催者、共催者のあいさつを行った後、前半はタブレットの説明及び基本的な操作方法を学び、後半は脳年齢度判定アプリ、日本地図パズルを使ってタブレットの操作に慣れていく、という形で進行しました。

受講前に「タブレットに触ったことがない」「子供にタブレットを送ってもらったけどほとんど使っていない」といった参加者の方々は、最初は緊張気味に講義を聴いていたものの次第にタブレットの操作に慣れ、後半に行われたゲームアプリを使った脳年齢度チェックでは、笑顔のなか何度も挑戦する姿が印象的でした。

### 【写真】(各会場にて撮影)

冒頭、主催者(関東総合通信局)および講師から挨拶



最初はタブレットの説明を受け、基本的な操作から実践



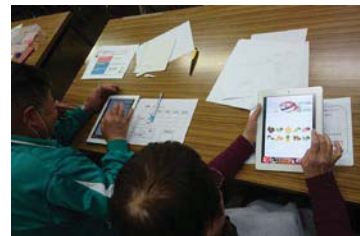
アプリを使って卵焼きを作る。これも操作練習のひとつ。



休憩を挟んで後半へ。その前に体操でリラックス。



脳年齢測定アプリで脳の活性化。



最後は日本地図パズル。完成が早かった上位3名の方を表彰。



(参考)

当日の様様については、関東ICT推進NPO連絡協議会のフェイスブックにアルバム掲載されています。

(FB: <https://www.facebook.com/kanto.ictnpo>)

主催: 総務省関東総合通信局  
関東ICT推進NPO連絡協議会

共催: 野木町公民館  
栃木市教育委員会  
壬生町立生涯学習館  
小山市中央公民館  
下野市生涯学習センター

後援: (株)下野新聞社  
栃木ケーブルテレビ(株)  
NPO法人チャレンジド・コミュニティ  
NPO法人ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地

連絡先

関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会事務局

(総務省関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課)

担当者:道祖土、真庭 電話 :03-6238-1680 FAX :03-6238-1698

